

除去土壌の再生利用等に関わる 地域の若者を中心とした理解醸成事業

Young Student's Contribution to Public Relations for Reuse of Very Low-level Contaminated Soil Generated by Decontamination of Fukushima

Upper grade students of NIT(KOSEN),Fukushima college have learned actively the status of interim storage, R&Ds for reuse of very low-level radioactive(VLL) contaminated soil towards final disposal of soil in Fukushima through a seminar, field works. After the active learning, they have challenged public relations for reuse of VLL contaminated soil under consideration of the local encountered difficulties. Finally effectiveness of these approaches has been discussed.

1. 概要

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う除染により生じた除去土壌等は、大熊町・双葉町に整備が進められている中間貯蔵施設に運搬され、中間貯蔵開始後30年以内に福島県外で最終処分されることとなっています。除染により発生する除去土壌は1,330万㎡(帰還困難区域を除く)と推計されており、減容化等の技術開発が進められています。本校では、アクティブ・ラーニングを通して学生が除去土壌等の再生利用等について正しく理解するとともに、地域住民との対話により理解醸成を進めるアプローチ手法の実践に取り組んでいます。

2. 理解醸成のための課題解決型アプローチ

本事業では、①学修プログラム、②フィールド・ワーク、③理解醸成に向けた取組の3つの取組を柱として、事業を推進しています。また、この取組を全国的な展開とするため全国の大学、高専との交流も行っています。

① 学修プログラム

中間貯蔵、減容・再生利用、最終処分に関する基礎的な知識、技能の習得のため集中講義を実施しています。講義の中ではPBL(Problem-Based Learning)やIBL(Inquiry-Based Learning)を取り入れたグループ討論も行い、学生の探求心や課題解決能力を養うことも目的としています。

② フィールド・ワーク

知識を習得するとともに、現状や問題点を主体的に把握することを目的に、中間貯蔵、減容・再生利用、最終処分に関する研究開発等の施設や現場の見学を実施しています。

見学予定施設等

飯舘村再生利用実証事業施設、中間貯蔵施設、特定復興拠点(大熊町等)等

③ 理解醸成に向けた取組

学修プログラム、フィールド・ワークによって得た知識を正しく伝え、地域への理解醸成につなげることを目的に、次の取組を行っています。

・大熊町花舞台作業

学生が地域住民とともに住宅地に花畑をつくり、信頼関係の構築につなげるとともに、作業後に再生利用や復興等に関するテーマで意見交換会を行っています。

・地域住民との勉強会

学生が1年間の学習成果を発表しながら、地域住民と除去土壌の再生利用等に関する意見交換などを行います。



フィールド・ワーク



大熊町・花舞台作業



地域住民との勉強会